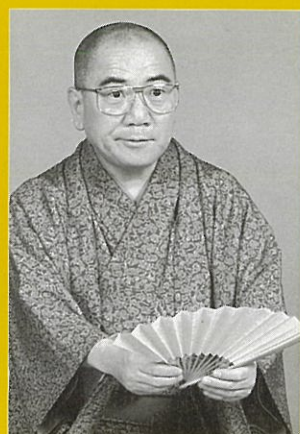
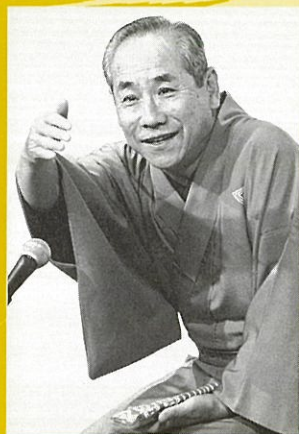
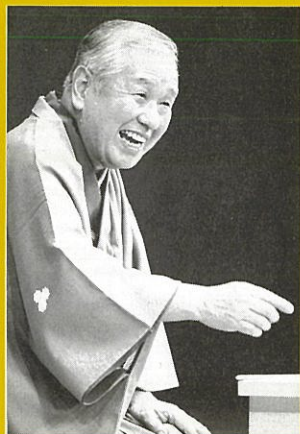


落語がはじめての人にも
満足していただけること うけあいます!!

ちょっと他では見られない
超豪華な顔ぶれの東・西競演!!

超！東西落語名人会



女性を描かせては右に出る者がいない本格派

きっちりとした語り口と優雅な身のこなしで酔わせる

たえず新作派の第一人者として東京落語界をリード

山のアナアナ…で人気を博したが、古典落語も卓抜な

桂 文枝
(前上方落語協会会長)

桂 春団治
(元上方落語協会会長)

桂 米丸
(東京)〈落語芸術協会会長〉

三遊亭 圓歌
(東京)〈落語協会会長〉

桂 三遊亭 圓歌
「旅行カバン」天野桂 作
「中沢家の人々」

桂 中入り

桂 坊枝
「開口一番」
桂 春団治
「祝いのし」
桂 文枝
「宿屋仇」

〔夜の部〕午後六時四十五分開演

桂 三遊亭 圓歌 米丸
「ジョーズ」

桂 中入り

桂 梅団治
「開口一番」
桂 文枝
「猿後家」
桂 春団治
「親子茶屋」

〔昼の部〕午後二時開演

平成10年(1998年)

11/28(土)

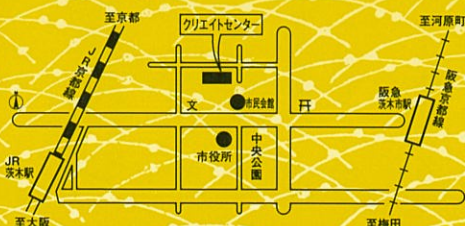
昼の部=午後2時00分開演(午後3時55分終演予定)

夜の部=午後6時45分開演(午後8時50分終演予定)

※開場は、昼・夜とも30分前

茨木市クリエイトセンター・センターホール

阪急茨木駅から西へ徒歩10分 JR茨木駅から東へ徒歩10分 市役所・市民会館北100m



■入場料【全席指定席】

1階席:一般=4,000円 割引(65歳以上高校生以下)=3,500円

2階席:一般=3,000円 割引(65歳以上高校生以下)=2,500円

昼夜通しでお求めの場合は1,000円引き

※就学前のお子様のお場はご遠慮ください

■チケット販売所 [9月1日発売]

(財)茨木市文化振興財団 ☎0726-25-3055

チケットぴあ ☎06-363-9999

ローソンチケット ☎06-369-6633 [Lコード59334]

チケット・セゾン ☎06-232-9999

※昼夜通し券および割引券の取り扱い文化振興財団のみです

■お問い合わせ・電話予約

☎0726-25-3055 / (財)茨木市文化振興財団

月~金 9:00~17:15 [土、日、祝日は休業]

〒567-0888 茨木市駅前四丁目6番16号 クリエイトセンター1F

超！東西落語名人会

平成10年11月28日(土) 昼の部=午後2時/夜の部=午後6時45分 茨木市クリエイティブセンター・センターホール

必見!! 「超」名人、昼夜の激闘!!

茨木市制五十周年を記念して、満を持して放つ「超」ビッグな特別企画です。

前座の二人を除いて出演者全員が、落語家で組織する東西の協会の現職の会長もしくは会長の経験者という、お祝いの会にふさわしい豪華な顔ぶれなのです。

では、遠来の客からご紹介しましょう。

まず、落語協会会長、三代目三遊亭圓歌師匠。昭和四年に東京で生まれました。NHKから後にフジテレビに移った小川宏アナウンサーとは幼なじみで、ご本人は旧国鉄職員になりますが、期する所があつて、昭和二十二年に二代目圓歌に入門します。

最初の名前が歌治、二つ目の歌奴時代に、山のアナナ：で有名な「授業中」という新作を大ヒットさせてマスコミの寵児となりました。

その後もいくつかの作品が目ざされ、師匠の名前を襲名し三代目となりました。

柳家小さんの後を継いで、協会の中で最も大世帯の落語協会会長として、よく全責を卒いています。

昼の部の演目「坊主の遊び」は古典で、上方では「坊主茶屋」で知られています。夜の「中沢家の人々」は、自伝風の新作で客席を魅了してくれました。

続いて、落語芸術協会会長、四代目桂米丸師匠。大正十四年神奈川県生まれです。専門学校を卒業するとすぐに、お婆さんもので人気のあつた古今亭今輔のもとに、昭和二十一年に入門します。

普通は前座からスタートするのですが、師匠今輔がその天分を見抜き、いきなり古今亭今児の名で二

つ目でデビューします。

そして、三年後に早くも四代目米丸で真打になるという、例のない超スピードで出世しました。

昭和五十一年から、会長の座にあり、新作派の多い落語芸術協会のシンボルの存在として陣頭指揮をとっています。

「ジョーズ」も「旅行カバン」も、新作の傑作として有名であり、その熱演ぶりに期待がかかります。続いて迎えるつ上方勢のご紹介です。

三代目桂春団治師匠は、元上方落語協会会長で現相談役です。

昭和五年、大阪市の生まれです。二代目春団治の実子ですが、小さい頃は噺家になるつもりは全くありませんでした。

それが、ひよんなきっかけで、昭和二十二年にこの世界に入り、はじめ小春、ついで福団治となりました。昭和三十四年に父の名を継いで三代目となりました。

端正な容姿、きっちりとした語り口は、多くのファンを引きつけ、芝居や映画で著名な初代以来の大看板を立派に継承しています。

本年度の紫綬褒章に輝くなど、充実そのものの今日この頃です。

昼の部の「親子茶屋」は、上方落語特有の「はめもの」と呼ばれる下座音楽の入った演目。夜の「祝いのし」もお得意の噺で、その意気込みが伝わってきます。

そして、五代目桂文枝師匠。この方も、春団治師匠と同じで、前上方落語協会会長、現相談役という



相羽秋夫 (演芸評論家、大阪芸術大学教授)

肩書きです。

昭和五年に大阪市の生まれも、春団治師匠と一緒に、昭和二十二年に四代目文枝に入門したというキャリアも、全く同じです。

デビューはあやめという女流のような美しい名前でしたが、後に小文枝となり、平成四年、師匠の名の五代目を襲名します。

三枝、きん枝、文珍ら、数多くの弟子を育てた手腕が高く評価されています。また、高座の方も、「華麗の文枝」と言われるほど、女性を描かせては天下一品です。

昼の部の「猿後家」などは、その典型で、女性の心理を見事に描いてくれることでしょう。夜の「宿屋仇」は、一変して口の軽い男どもの生態を描写したもので、いずれも師匠のおはこです。力演が十分に予想されます。

こうした、ちよつと他の会では見られない強力な出演者の前座をつとめるのは、昼の部は春団治門下の四代目桂梅団治さん。夜の部は文枝門下の桂坊枝さんで、二人共次の時代を背負って立つ実力派の中心です。

ともあれ、次にどこでこの顔ぶれが実現するのだろうかという、落語ファン必見の企画です。

興味があつてもあまり落語に縁のなかつた方にも、十二分に満足していただける会であることを、私が保証します。

深秋の楽しい思い出づくりに、「超！東西落語名人会」をお勧めする次第です。